



Health ISAC Japan Security Session

ガイドラインの先にあるリアルな課題

— 電子カルテ停止時の紙伝票運用と情報伝達をめぐる現場の試行錯誤 —

講師：順天堂大学医学部附属順天堂医院看護部 看護情報管理・戦略担当 玉本 和紀

日時：2026年5月28日（木）17:00～18:00 Google Meet によるライブ配信

講師略歴



順天堂大学医学部附属順天堂医院 看護部にて看護情報管理・戦略を担当。同院では脳神経外科病棟、ハートセンターICU・CCU勤務を経て、2013年より現職を拝命。2018年順天堂大学大学院医療看護学研究科看護学専攻博士前期課程を卒業。電子カルテを基盤とした看護業務の標準化、医療安全と業務効率化の両立に資するIT活用、データに基づく看護マネジメントの推進に取り組む。

講演要旨

電子カルテシステムの停止に備えた準備と訓練は、医療機関のリスクマネジメントに不可欠である。一方、システム停止の様相は計画的な停止から、災害・障害による計画外停止、ランサムウェア攻撃まで多岐にわたり、各病院は体制構築に試行錯誤している。2024年度診療報酬改定では、診療録管理体制加算1の要件としてBCP策定と年1回のシステム停止訓練が義務化されたが、紙伝票の様式や運用、職員・患者への情報伝達といったリアルな課題への具体策は、電子カルテや施設背景の違いから、各施設が独自の工夫を重ねているのが実情である。

本講演では、電子カルテリプレースや外部監査への対応を起点に、災害対策とは性質の異なるシステム障害発生時の情報伝達と初動対応マニュアルを作成、年々アップデートを重ねながら院内訓練を継続している当院の経験と現在地を率直に共有する。まだまだ課題を十分にクリアしているとは言い難く、限られた人員と時間の中で「うまくいかない」もどかしさを抱えながら意思決定を積み上げてきた試行錯誤の記録でもある。同じ課題に向き合う方々と、現場の対応力をいかに高めていくかを議論できる情報を提供したい。

以上